

宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	82.8	82.2	81.8
	量と測定	77.1	76.4	74.8
	図形	73.7	74.5	71.8
	数量関係	87.5	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	90.0	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	71.7	71.1	69.5

【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	59.7	62.6	61.3
	量と測定	55.1	58.0	56.5
	図形	66.9	67.5	65.7
	数量関係	55.5	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	44.0	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	77.1	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	55.4	56.3	54.8

★算数に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「算数の勉強は大切だと思う」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出て役に立つと思う」と肯定的に答えた児童の割合は、ともに95.5%と非常に高い。「問題の解き方や考え方を分かるようにノートを書いている」という児童の割合も90.3%と占めている。また、算数の問題を解くときに、「分からなくても諦めずにいろいろな方法を考えている」「もっと簡単に解く方法を考えたりなど努力をしようとしている」「そのわけを理解するようにしている」という児童の割合も、それぞれ85.8%、82.0%、87.9%と高くなっている。いずれも全国平均を上回っている。算数の授業に対して、前向きな姿勢で取り組んでいることが分かる。

●「算数の勉強は好きですか」という質問に肯定的に答えた児童の割合は60.1%で、県の平均よりも6.0ポイント低い。算数に対する興味・関心を高められるような教材や指導法の工夫が必要である。

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○加法、乗法、減法と情報の混合算、分数の加法の計算問題の正答率は、92.4～98.5%と高い。 ●小数の減法の計算問題の正答率は、全国平均よりも5.2ポイント低い。 ●公倍数に着目して、二つの数量が重なる部分を見つける問題の正答率は52.3%で、全国平均よりも8.2ポイント低い。	・繰り返しドリル学習等を行うようにすることで、基本的な計算が正確にできるようにする。 ・示された情報を解釈したり整理したりして、条件に合う図を選択したり、筋道立てて考えたりすることに課題が見られた。様々な文章問題を解かせることで、学習したことを場面に応じて応用できるようにする。
量と測定	○体積の単位(1cm ³)で体積を測定する問題の正答率は84.0%で、全国平均よりも2.9%高い。 ●単位量あたりの大きさを求める問題や棒グラフで理由を記述する問題の正答率は、それぞれ64.1%、63.8%とやや低い。 ●条件に合う時間を求める問題や必要な量と残りの量の大小を判断してその理由を記述する問題の正答率は、それぞれ33.8%、29.2%と低い。	・単位量あたりの大きさを求める問題では、関連図や線分図を描くなどの助言をすることで、立式し、答えを導き出せるようにする。 ・様々な文章問題を解き、場面の状況を丁寧に読み取れるように指導していく。 ・自分がどう考えて問題を解いたのかについて、根拠や理由を明らかにしながら、言葉や図で説明する機会を多く作るようにする。
図形	○円の直径から円周の長さを求める問題や正五角形の一边と周りの長さの関係を表す問題の正答率は、それぞれ90.1%、86.3%で、全国平均よりもそれぞれ6.1ポイント、4.3ポイント高い。 ●平行四辺形の特徴に関連付けた作図の方法を問う問題の正答率は48.9%で、全国平均よりも3.1ポイント低い。 ●立体図形とその見取図の位置関係を考える問題も正答率は、69.5%とやや低い。	・図形の作図については、図形の特徴と関連付けながら描き方を指導することで、作図についての理解を深められるようにする。 ・立体図形については、実際に見取図を組み立てるなど、体験的な学習を多く取り入れ、空間を認識する力を養うようにする。
数量関係	○減法と乗法の混合した整数の計算問題は、正答率が91.6%と高く、全校平均を10.7ポイント上回っている。四則の混合した式の意味を問う問題も、正答率が84.7%と高かった。 ●異なる数値でも、示された条件をあてはめて工夫して計算したり、情報を整理し、筋道を立てて考える記述式の問題は、正答率が29%前後と低い。	・基本の問題では、計算のきまりをよく理解し、正しく計算することができた。反面、活用の問題においては課題が見られるので、基礎的な事項との関連を図りながら、問題の場面を丁寧に指導するとともに、数多くの問題に取り組ませていく。 ・記述式の問題については、普段の授業から様々な考え方を出させて、記述式の問題に慣れさせていく。